

令和12年度以降のごみ処理施設の在り方について



市は、令和12（2030）年度以降のごみ処理施設の在り方について検討の結果、クリンクルセンターを令和21（2039）年度まで稼働（再延命化）させることを決定しました。

問い合わせ 環境対策グループ
(☎0123) 2958

検討の経過

クリンクルセンターは、市と白老町との1市1町の広域処理により、平成12（2000）年4月に運転を開始し、計画的に延命化対策を行いながら運転を続けていますが、今後の方向性として、運転開始から30年を過ぎる令和12（2030）年4月以降のごみ処理施設の在り方について、『さらなる延命化（再延命化）』か『新たな施設を建設（新設）』かの検討を進めてきました。

ごみ処理施設の再延命化または新設のどちらを選択する場合も、ごみの減量化が必要となります。

燃やせるごみの多くを占める『生ごみ』や『紙ごみ』、『プラスチックごみ』の新たな分別の可能性についても検討を重ね、検討結果を広報のぼりべつ2023年1月号でお知らせしました。

方針策定の経過

専門的な知識を持つ方や市民などで構成される『登別市環境保全審議会』に市の案に対しての見解を求めるとともに、パブ

リックコメントの実施により意見を公募したほか、市内3カ所で住民説明会を開催し、市民の皆さんから広く意見を伺いました。

住民説明会では、再延命化と新設の比較検討の結果について説明を行い、参加者からは一定の理解が得られたものと考えています。

また、登別市環境保全審議会では、委員それぞれの立場から質問や意見が出されるなどの議論が行われた結果、『提示された案について適当である』との回答を受けました。

再延命化が妥当

これらを踏まえ、市は令和12年度以降のごみ処理施設の在り方については、クリンクルセンターを令和21（2039）年度まで稼働させる再延命化が妥当であると結論付けました。

また、ごみの分別については、『生ごみ』の分別収集は見送り、『紙ごみ』は、町内会などで取り組んでいる資源回収の強化や公共施設などでの拠点回収の実施を検討すること、『プラスチックごみ』は、将来的に分別収集を導入することなどを決定しました。

ごみの減量化に向けて



クリンクルセンターを令和21（2039）年度まで稼働することを決定しましたが、更なる将来を見据えた場合、ごみの減量化については、市民の意識を高め、取り組んでいく必要があります。

市は、令和5年度に、生ごみの減量化につながる『家庭向け電動生ごみ処理機や生ごみ堆肥化容器（コンポスト）の購入に対する支援』や紙ごみの減量化につながる『紙ごみを無料で持ち込める回収拠点のクリンクルセンターへの設置』を行う予定です。

ごみは、市民一人ひとりの取組で、減量化することができます。将来の登別に向けて、皆さん、一緒に取り組んでいきましょう。

市公式ウェブサイト

